

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 23, No. 3 神奈川県立生命の星・地球博物館 Sept. 2017



ムラソイの黄化個体

Sebastes pachycephalus pachycephalus
Temminck et Schlegel, 1844
yellow variant

標本: KPM-NI 42684*

画像: KPM-NR 180103D*

体長: 150.2 mm

瀬能 宏 (学芸員)

※当館電子台帳上の資料番号はゼロを付加した
7桁の数字で表記されます

2017年3月15日、横浜港に架かる横浜
ベイブリッジの真下で、全身がほぼ橙色
の魚が釣獲されました。釣り上げたのは
横浜東漁業協同組合所属の薊丸船長、
富永正行さんです。見たことがない魚
だったため、魚体は神奈川県水産技術
センターの岡部 久さんを通じて当館に
寄贈されました。

一見して眼以外の体やひれの黒色
素胞が欠落したメバル科メバル属の魚
の黄化個体であることはわかりました
が、単純な図鑑との絵合わせができな
いため、形態的な特徴を詳細に検討
してみました。その結果、頭頂棘があり、
涙骨の棘は鈍く、背鰭棘は13本で、

側線有孔鱗が32枚といった特徴に加
えて、背鰭棘状部の基底付近が微小鱗
に覆われていました。同様な特徴を持
つ近似種にホシナシムラソイ *Sebastes
pachycephalus nigricans* が知られてい
ますが、今回の個体には胸部に斑点が
認められたため、最終的にムラソイに
同定されました。

黄化個体は自然界では目立つため、
捕食者に狙われやすく、生き残る可能
性が小さいと考えられます。今回の個体
がなぜここまで生き延びることができた
のでしょうか？横浜港という人工的な環
境に生息していたことと何か関係がある
のかも知れませんね。